

## 家畜生産・衛生情報

### 農場HACCPシンポジウムのご案内

日時：平成25年7月31日(水) 13:30~16:00

場所：ホテル信濃路（長野市岡田町134-4 TEL 026-226-5212）

内容：「農場HACCPの現状と今後の展望」

公益社団法人中央畜産会 常務理事 宮島成郎 先生

「畜産農家が無理なく取り組める農場HACCP」

㈱アスコ 付属研究所 二村直史 先生

「県内導入農場の事例発表」

・会田共同養鶏組合(採卵鶏) ・(有)中村ファーム(養豚) ・草笛農園(肉用鶏)

「長野家保における農場HACCP推進の取組」

長野家畜保健衛生所

主催：一般社団法人長野県獣医師会、同長野支部、同獣医畜産部会、  
一般社団法人長野県畜産会、長野県長野家畜保健衛生所

申込：長野家畜保健衛生所 TEL 026-226-0923

(※農場HACCPとは、畜産農場における衛生管理手法のことです。)

## さあ、夏本番！

### 暑熱対策に取り組んで、暑い夏を乗り切りましょう！

今年の夏は、猛暑になると予測されています。  
今すぐできる事から暑熱対策を実践して、生産性の低下を防止しましょう。

#### 《 共通事項 》

##### 畜舎環境の改善

- ・窓や天窗、サイドカーテンは全面開放し、通風に努める。
- ・よしずや寒冷紗で直射日光を遮る。
- ・扇風機、ポリダクトを設置し換気送風に努める。複数の扇風機を使って送風する場合は同一方向に送風し、畜舎全体の空気が流れるようにする。
- ・屋根への散水や工業用消石灰等の塗布などを行い舎内温度の低下に努める。
- ・天井の低い畜舎では、窓を閉じて一方から空気を排出し「負圧換気」することにより、畜舎内に新鮮な空気が流れ、防暑・換気効果が高まる（トンネル換気）。

##### 家畜への対策

- ・飼育密度を検討して出来るだけ薄飼いにする。
- ・給水設備の作動状況を確認し、常に新鮮な水が飲めるようにしておく。
- ・夜間などの涼しい時間帯の飼料給与、あるいはパドックでの飼料給与を行なう。
- ・嗜好性・栄養濃度の高い飼料の給与で食欲と栄養を確保する。
- ・畜体への直接送風は、熱の放出が多い首・肩から背にかけて風を当てるようにする。

## ◀ 各畜種における対策 ▶

### 乳用牛

#### 【暑熱の影響】

乳用牛は25℃を超えるとストレスを感じて、飼料の摂取量が減少し、乳量の低下、繁殖の低下、周産期疾病の増加を招く。

#### 【対策】

- ・濃厚飼料給与の分散（1回あたりの給与量を減らし多回給与する）。
- ・嗜好性の良い良質な飼料を給与し、ミネラル給与量を1～2割増給する。
- ・後軀から乳房にかけての毛刈りは、乳牛の体感温度を2～3℃低下できるとともに搾乳衛生にも効果的。
- ・サイレージ等の変敗に注意（取り出し後の畜舎での置場などにも注意）。
- ・TMRでは、採食量を増やすため、餌の掃き寄せ回数を多くし、下から上へ混ぜるようにする。

### 肉用牛

#### 【暑熱の影響】

肉用牛では暑熱環境によるストレスで、採食量の低下による発育の停滞や繁殖成績の低下、飲水量増加による子牛の下痢多発、ビタミンA消耗による肥育牛の事故増加が起こる。

#### 【対策】

- ・嗜好性の良い良質な粗飼料を切断して給与する。（粗悪な長い粗飼料は逆効果）
- ・ミネラル類、ビタミンAを通常より多く給与する。
- ・給水設備の作動状況を確認し常に新鮮な水が飲めるようにする。
- ・子牛の給水バケツなどの衛生管理に注意。

### 養豚

#### 【暑熱の影響】

豚は皮下脂肪が厚く汗腺が退化しているため、暑熱環境には特に弱い。繁殖豚の適正温度は15～18℃であり、気温30℃・湿度70%以上で著しく飼料摂取量が低下する。

#### 【対策】

- ・母豚は首筋への冷水滴下と頭部を主体に送風を行う。
- ・肥育豚は飼育密度を下げて通風を確保する。
- ・交配はできるだけ涼しい時間帯を選んで行う。

### 養鶏

#### 【暑熱の影響】

鶏には汗腺がなく暑熱環境には著しく弱く、採卵鶏では産卵率や卵重の低下、肉用鶏では発育の停滞を招く。また、気温35℃以上では熱死が多発する。

#### 【対策】

- ・鶏体への直接送風を行う。
- ・すだれや寒冷紗により鶏舎内への直射日光を遮断する。
- ・採卵鶏への重曹・ビタミンC製剤の飼料添加する。

家畜の異状や死亡率の増加など暑熱の影響によるものか、感染症によるものか判断に迷う場合には、管轄の家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。